

平成 20 年度電気規格調査会規格委員総会 (表彰式) の報告

標準化推進室

7月24日 午後、グランドヒル市ヶ谷「珊瑚の間」にて平成20年度電気規格調査会規格委員総会を開催いたしました。

規格委員総会では、新部会発足に伴い平成19・20年度電気規格調査会規格役員が一部改選されました。また、平成19年度電気規格調査会事業報告、平成20年度事業計画および電気規格調査会活性化方策アクションプランが報告されました。

引き続き、今回が3回目となる電気規格調査会功績賞、功労賞の表彰式が行われました。功績賞には、可変速駆動システム標準特別委員会と田中立二氏、功労賞には、古関庄一郎氏と西村誠介氏が受賞されました。受賞後、受賞者各々から謝辞挨拶も行われました。

功績賞を受賞された可変速駆動システム標準特別委員会(金東海氏、川上和人氏、増田博之氏、大澤千春氏、秋田佳稔氏、井上博史氏、上田彰司氏、河村博年氏、古賀宣考氏、中野孝良氏、野村昌克氏、今柳田明夫氏、高橋弘氏、片田浩一郎氏)は、変換器電圧が1,000ボルトを超える交

流可変速駆動システムに関する電気規格調査会標準規格「高電圧交流可変速駆動システム」を制定されました。制定には五年の歳月を費やし、幾多の難問にぶつかりながらも利用者にとって有効な内容とされました。本規格は関連する一連の規格の中核をなすもので、制定によって発展著しい同分野の国内市場において商業活動と生産の効率化を促しました。

功績賞を受賞された田中立二氏は電力システム管理および関連する情報交換分野の発展・向上とその標準化推進に関し、わが国の中心的存在として活躍され多大な貢献をされました。取り組まれた国際電気標準会議規格「変電所内の通信ネットワーク及びシステム」や「エネルギーマネジメントシステムアプリケーションインタフェース」は、海外作業会への積極的参加および延べ100件を越える文書によるコメント提出により、日本の国情を考慮した規格となりました。また電気規格調査会において電力用通信標準化委員会の委員および作業会の幹事として活躍され、審議の円滑化を目的とした日本語解説資料も作成されました。

功労賞を受賞された古関庄一郎氏はパワーエレクトロニクス技術の発展・向上とその標準化推進に関し、わが国の中心的存在として長年に亘り多大な貢献をされました。電気規格調査会においてパワーエレクトロニクス標準化委員会の幹事補佐・幹事として活躍され、パワーエレクトロニクス関係の電気規格調査会標準規格15件の制定・改訂を取りまとめるとともに、国際電気標準会議規格審議および日本工業規格制定に対しても寄与され、この分野における標準化を推進されました。また電気学会の大会を通じてパワーエレクトロニクス規格情報を発信し、電気規格調査会の活動を広めることにもご尽力されました。

功労賞を受賞された西村誠介氏は電線・ケーブル技術ならびに高電圧試験技術の発展・向上とその標準化推進に関し、わが国の中心的存在として長年に亘り多大な貢献をされました。電気規格調査会において数多くの標準化委員会等の委員長・委員を歴任して標準化を推進されると共に、後進の育成にもご尽力されました。電線・ケーブル分野においては国内配電における標準的電圧階級の架橋ポリエチレンケーブルおよび接続部試験法の電気規格調査会標準規格を制定され、また高電圧試験分野においては国際整合化を踏まえた高電圧試験方法関連の電気規格調査会標準規格の改訂を精力的に進められました。



写真1 功績賞 可変速駆動システム標準特別委員会 (代表 川上和人氏)



写真2 功績賞 田中立二氏



写真3 功労賞 古関庄一郎氏



写真4 功労賞 西村誠介氏